

無痛分娩同意書

当院では硬膜外麻酔による無痛分娩を行っております。

分娩時の痛み（産痛）は、陣痛の開始から始まる子宮の収縮の痛みと、胎児の先進部が下降してきて子宮口が圧迫・拡張される開口痛から起こります。痛みの感じ方には個人差もありますが、産痛や分娩に対する不安や恐怖といったストレスが分娩の進行を遅らせ、場合によっては産婦がパニック状態になり胎児に悪影響を及ぼすこともあります。そのため、産痛を適切な方法で取り除くことは、安全な分娩を行うための一つの方法とも考えられます。

当院では現在最も理想的とされる、硬膜外麻酔による無痛分娩を行っています。しかし、無痛といってもある程度の圧迫感は残り、手術の時のような完全無痛を得るわけではありません。麻酔薬の拡がりや個人差により、効果が不十分な場合もあります。また、長時間の陣痛による産婦や胎児へのストレスを避けるために、陣痛促進剤を点滴させていただく場合もあります。

なお当院では、原則として自然陣痛の発来を待って無痛分娩を始めるため、夜間・休日の入院の場合、すぐにご希望に添えないこともありますので御了承ください。

<硬膜外麻酔の実際>

- (1) 点滴にて血管を確保し、輸液を行います。
- (2) 背中から専用の針で穿刺し、硬膜外腔に細いチューブを挿入。そこから麻酔薬を必要に応じて注入します。
- (3) 以下の場合は危険を伴うため無痛分娩ができないことがあります。
 - ① 脊椎の解剖学的異常や脊椎手術の既往
 - ② 血液凝固障害
 - ③ 全身または穿刺部位の感染
 - ④ チューブの挿入が困難なとき

<利点>

- (1) 局所麻酔のため、意識ははっきりし、産痛だけを除去できます。
- (2) 胎児への薬物の影響がほとんどありません。
- (3) 筋の緊張がとれ、子宮口の開大がスムーズになります。

<合併症>

- (1) 娩出時、産婦自身のいきみが充分でないため、何らかの産科的処置（吸引・鉗子分娩促進剤の使用など）が必要になることがあります。
- (2) 血圧低下（20%）
- (3) 頭痛（1%以下）
- (4) その他非常に稀ですが以下のことがおこることがあります。
血管内迷入・局所麻酔薬中毒・くも膜下注入・硬膜外血腫・硬膜外膿瘍
神経障害（感覚異常）

<費用>

麻酔処置として、別途 100,000 円いただきます。

喘息の既往 無・有 (_____)

星ヶ丘マタニティ病院 病院長殿

以上の説明を (_____) 医師より受け、硬膜外麻酔を受けることに

同意いたしました。

年 月 日

ID _____ 氏名 _____ (印)

配偶者または親族者氏名 _____ (印)